

大学のFD活動において、初年次教育、アクティブラーニング、シラバス設計、成績評価などについては多くの実践や知見の共有がなされている。その一方で、大学教育の出口にあたる卒業論文の指導や研究室の運営については、どんな課題があるのかはよく知られていない。卒業論文を学生に書かせることにはどんな意義があるのか、指導教員が果たす役割はどのようなものか。

神戸大学教授 近田政博

よかれと思って裏目に
出る難しさ

米映画「ゴッドファーザー」シリーズをご存じの方が多いと思う。言わずと知れたマフィア映画の金字塔であるが、通底する主題は父と息子の絆である。父は幼少期にシチリア島から命からがら逃げ出し、ようやくたどりついたニューヨークで、生来の律儀さで仲間

の信頼を得て真家業のドンのし上がり、妻子を慈しみながら、巨大な「ファミリー」を形成していく。

父の晩年に思いがけず跡目を継いだ三男坊は、「ファミリー」を維持するために、心を鬼にして

「昔の自由放任的な研究指導スタイルを、今の研究室に持ち込んだらムチャクチャなことになる」という話を同僚教員から聞くことはよくある。

その本質は、社会状況や学生が大きく変化したこともあり、「教員がよかれと思ってやること」が裏目に出てしまうという点にある。実はアカデミック・ハラスメントはこのパターンが多い。たとえば、教員がいさづ

がわりに、「論文は書けら固有名詞として認識される存在である。第二は、期間が長いことである。授業で担当教員と接するのは履修期間に限られるのに対して、ゼミや研究指導での人間関係は多くの場合、複数年にわたる。第三は能動的な学びが欠かれないことである。講義形式の授業では

知識は教員から半ば自動的に与えられるので、学生はそれを生かす努力を怠りやすい。卒業論文の作成は自分で試行錯誤しなければならぬ。第四は

「昔の自由放任的な研究指導スタイルを、今の研究室に持ち込んだらムチャクチャなことになる」という話を同僚教員から聞くことはよくある。

その本質は、社会状況や学生が大きく変化したこともあり、「教員がよかれと思ってやること」が裏目に出てしまうという点にある。実はアカデミック・ハラスメントはこのパターンが多い。たとえば、教員がいさづ

がわりに、「論文は書けら固有名詞として認識される存在である。第二は、期間が長いことである。授業で担当教員と接するのは履修期間に限られるのに対して、ゼミや研究指導での人間関係は多くの場合、複数年にわたる。第三は能動的な学びが欠かれないことである。講義形式の授業では

知識は教員から半ば自動的に与えられるので、学生はそれを生かす努力を怠りやすい。卒業論文の作成は自分で試行錯誤しなければならぬ。第四は

知識は教員から半ば自動的に与えられるので、学生はそれを生かす努力を怠りやすい。卒業論文の作成は自分で試行錯誤しなければならぬ。第四は

研究指導や研究室運営に
する研究指導は、学問分野を超えてノウハウを共有することが難しいとみ
なされてきた。しかし、
筆者が『シリーズ大学の
教授法5研究指導』(玉
川大学出版部、二〇一八
年三月)を制作するにあ
たり、多くの大学教員に
調査を行ったところ、実
際には分野を超えて共有
できる知見が少なくない
ことを実感した。それら
は次の三点に要約でき
る。

第一は、密室化しやすいことである。教員研究室での個別指導のやりとりは「言った、言わない」の問題を生みやすい。また、研究指導は教務担当や学生担当の事務職員から実態が見えにく

く、聖域化しがちである。このため事務局の知らないところで問題が深刻化しやすい。では、必ずしも大学院に進学するわけではなく、大半が研究職をめざすわけでもない一般の大学生に卒業指導をすることに、いったいどんな意義があるのだろうか。これま

で、演習などを通じて進捗状況を何度も発表させ、フィードバックを重ねる習慣づけが必要となる。リスク管理も重要である。概してパソコンやプリンタは肝心なときに故障するので、日頃からファイルのバックアップをとる習慣を学生につけさせるべきだ。また、

学生は無理をして体調を崩すこともあるので、体調管理やストレス管理も軽視できない。寒くなってきたら、学生にうがい薬を迷わず買わせよう。

卒業論文を書かせることの意義

指導教員の役割は何か

と、聖域化しがちである。このため事務局の知らないところで問題が深刻化しやすい。では、必ずしも大学院に進学するわけではなく、大半が研究職をめざすわけでもない一般の大学生に卒業指導をすることに、いったいどんな意義があるのだろうか。これま

と、聖域化しがちである。このため事務局の知らないところで問題が深刻化しやすい。では、必ずしも大学院に進学するわけではなく、大半が研究職をめざすわけでもない一般の大学生に卒業指導をすることに、いったいどんな意義があるのだろうか。これま

と、聖域化しがちである。このため事務局の知らないところで問題が深刻化しやすい。では、必ずしも大学院に進学するわけではなく、大半が研究職をめざすわけでもない一般の大学生に卒業指導をすることに、いったいどんな意義があるのだろうか。これま